



「なぜ、掃除をするの!!」

中庭の梅の花がほころび始めましたが、県内では、インフルエンザが流行し警戒注意報が出ています。今のところ本校では、インフルエンザで欠席する児童は、毎日4～7人で推移しており、学級閉鎖にまではいたっていません。

先日、本校の弥四郎拭きがRKBラジオのスナッピーで取り上げられました。そこで今回は、「なぜ、掃除をするのか」について、お話しをしたいと思います。

清掃活動は、日本だけ？

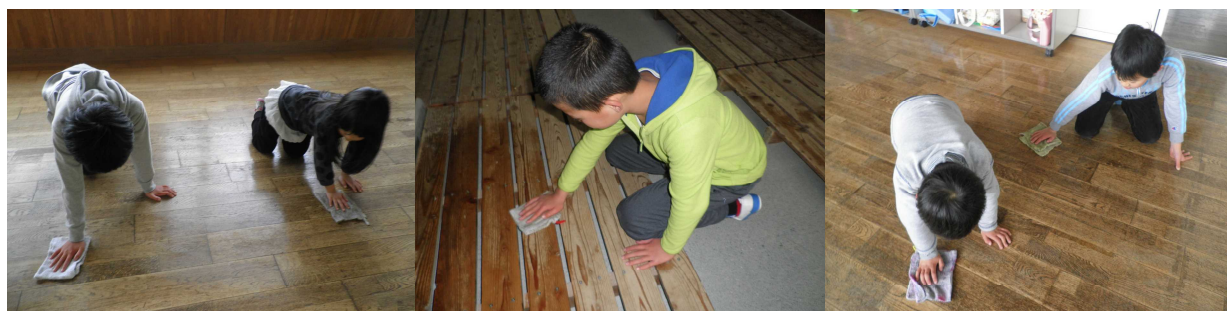
日本の学校では、児童・生徒が教室や校舎の掃除をします。ところが外国では、掃除をしない学校が多いようです。2年前、ドイツの小学校を訪問した時に、「日本には、清掃活動があります。」と説明したら、「それは、良いシステムだが、専門の清掃員の仕事を奪うことになるので、ドイツでは、不可能です。」と言われました。

では、なぜ、日本では掃除をするのでしょうか。

清掃活動の大きな目的は、子ども達の勤労観（当番活動の役割と働くことの意義）を養うことです。ここで大切にしていることは、「やらされている」のではなく「自分たちで自ら取り組む」意識を高めることです。そのために、本校では、一年生から六年生が縦割りの班で、清掃活動を行います。六年生を中心に、テキパキと掃除をします。ほうきではなく子、机を運ぶ子、雑巾がけをする子、それぞれの役割分担がしっかりしているので、あっという間に掃除が終わります。特に、一拭き一拭き、床を丁寧に拭く弥四郎ぶきには、感心させられます。また、掃除が早く終わったら、新聞紙を丸めて、窓ガラスを拭き始めます。窓ガラスもピカピカになります。もちろん、教師も子ども達と一緒に掃除に取り組みます。

掃除が終わった後に、子ども達からはこんな感想が聞かれました。「掃除は大変だけど、友達と力をあわせれば早く終わるし、きれいになるので気持ちいい。」「上級生をお手本に頑張っている。」「・・・日々の清掃活動の中で、子ども達は、友達と一緒に力を合わせることの大切さ、責任をもって最後までやり遂げることの素晴らしさ、を体感しています。つまり掃除を通して、子ども達は、強調性、主体性、責任感を学んでいます。これらの力は、社会に出ても必要となる基礎的な力です。」

全国には、無言清掃を行っている学校もありますが、本校は本校のスタイル（床をみがき、心をみがく縦割り掃除）を大切にしていきたいと思えます。



【弥四郎ぶき】

安心・安全のために

先日、バスを使って通学している本校の児童が、バスが停車する前にバスに近づき、バスに接触しそうになりました。すぐに、バスを利用する子ども達を集めて、バスの乗り方について安全面の指導をしました。また、バス停に職員が立ち、安全指導を行いました。

ご家庭でも安全なバスの乗り方について、お子様とご確認をお願いいたします。